

川崎駅周辺帰宅困難者対策訓練検討会

川崎駅周辺地域都市再生緊急整備協議会

(第2回 都市再生安全確保計画作成部会)

日 時 平成25年11月20日(水) 10:00開会
場 所 川崎商工会議所 第5・6会議室

川崎市総務局危機管理室 須田課長

ただ今から川崎駅周辺帰宅困難者対策訓練検討会を開催いたします。なお訓練に引き続きまして、この検討会につきましても報道公開をしておりますのでご了承いただきたいと存じます。それでは開会にあたり川崎駅周辺地域都市再生安全確保計画作成部会の部会長であります川崎市総務局危機管理室小林室長よりご挨拶申し上げます。よろしく願いいたします。

開会 川崎駅周辺地域都市再生安全確保計画作成部会 部会長 挨拶 部会長 川崎市総務局危機管理室 小林室長

どうもみなさまおはようございます。この部会長、そして川崎市の危機管理室長の小林でございます。よろしく願いいたします。本日は川崎駅周辺で初めての帰宅困難者対策実動訓練を実施いたしました。みなさま朝早くから大変お疲れ様でございました。訓練実施にあたりまして、ご参加ご協力いただきましたみなさま方に深く感謝申し上げます。

本日の訓練につきましては川崎駅周辺地域都市再生緊急整備協議会の第2回都市再生安全確保計画作成部会という位置づけで、大規模な地震が発生した場合の川崎駅周辺における帰宅困難者による混乱の抑制に向けて、鉄道事業者、一時滞在施設、周辺施設等の関係者が連携した安全確保、避難誘導および一時滞在施設開設訓練を約500名の参加を受け実施したところでございます。川崎駅周辺の災害時における帰宅困難者の対策、行動ルールというものの案を作成しておりますが、その検証を行うことを目的に実施したものでございます。

東日本大震災におきましては、この川崎駅周辺約3,000人の帰宅困難者が発生いたしまして、本日訓練会場としてご協力いただきました川崎アゼリア様等でこの3,000人の帰宅困難者の収容の方をいただいたところでございます。

今年3月に公表いたしました川崎市直下の地震の被害想定でM7.3の場合の被害想定ですと、川崎駅周辺に約19,000人の帰宅困難者が滞留しまして、多くの人的被害や建物被害が発生すると見積もられております。この19,000人という数字も、実際に今進めておりま

す事業所・学校等には3日分の食糧の備蓄、周辺の帰宅困難者を抑えるために留まって欲しいということを前提にした結果を踏まえて19,000人。そういう対策を進めないとさらに多くの方がこの川崎駅周辺に集まってしまう。川崎駅周辺には各事業所等多くありますが、みなさま方に強い協力を申しお願いしながらこの対策を進めていく必要があるなど考えております。

この駅周辺の安全を確保するためにはこのようなですね、この駅周辺のみなさま方相互に連携して取り組むことが必要だと考えております。また東日本大震災の際には川崎市内の被害が少なかったということもございまして、アゼリアに集まった3,000人の避難者に対しまして区役所が中心となって毛布の配布等を行いました。実際に本日の訓練の想定、川崎市直下の地震の場合には被害が多く出ていると想定されます。

その場合に行政が帰宅困難者の対応をすることは非常に限られてしまいます。実際には救出救護、市民の皆様の生命、財産、それを守る対策を行いながら怪我の無い方の帰宅困難者対策、それに対して対応することは非常に限られてしまうなどという中で、この協議会の中で連携した取り組みが非常に重要であると考えてございます。

今回の訓練におきましては各一時滞在施設の方に簡易無線機、また施設マップ等を活用いたしまして、それぞれの組織の役割分担と連携体制、情報伝達、情報発信の拠点の整備、一時滞在施設の開設・運営等について訓練をいたしましたが、この訓練を通じて多くの課題や貴重な教訓が得られたと思います。この無線機を活用した情報伝達、初めてやった訓練でございますし、このようなことによって最初に帰宅困難者の一番目の前にあるアゼリア等に多くの方が避難すると思いますが、そこがいっぱいになった場合どこに誘導すればよいか、具体的な誘導方法については課題になってくるのかなということで、この無線機を活用した帰宅困難者の誘導、このようなことを今回初めて行ったということでございます。

本日の訓練を通じましてこの川崎駅周辺で作っております帰宅困難者対策の行動ルール、これの中身を検証しながら今後さらに帰宅困難者対策の方を進めてまいりたいと考えておりますので、関係者のみなさまには引き続き一層のご支援ご協力をお願いいたしまして開催にあたりましての挨拶とさせていただきます。本日はお疲れ様でございました。

川崎市総務局危機管理室 須田課長

それでは議事に入らせていただきます。最初に各参加機関からの報告です。鉄道事業者として帰宅困難者の誘導を直接実施していただきました、まずJR川崎駅様よろしく願います。

議事（１）各参加機関からの報告

① 駅職員（ＪＲ川崎駅、京急川崎駅）

ＪＲ川崎駅 小山副駅長

お疲れ様でございます。川崎駅副駅長をしております**小山**と申します。本日はどうもお疲れ様ございました。

本日初めての訓練ということで、新しく配備されました無線を使いまして情報伝達ができたとことで、かなり入りもよく情報がうまく回ったのではないかと思ひ、それはよかったのではないかと思います。

実際問題こういう災害が起きた場合ですね、駅の中で当然ながらお客様の安全確保が一番大事になりますので、お客様の怪我ですとか駅の中の被害状況を確認するということになります。本日は訓練ということでございますので、ある程度人数が読める中で避難所のマップをお配りできるのですけれども、実際問題は、本番になった場合は数を分けてお客様を誘導できるかということが今後の課題ではないかと。

昨日、私ども駅の方で（電車の遅れによる駅周辺の大混雑で）ご迷惑をおかけして申し訳なかつたですけれども、ああいう形のを想定した場合にお客様の誘導というのはかなり難しい。先のことを少し考えながら動かなければいけないのかなと今回思つたことでございます。

このようなことがなければ一番良いのですけれども、あつた場合には駅の方も社員の力を合わせまして、みなさまと協力しながら頑張つていきたいと思ひますのでご協力よろしくお願ひいたします。以上です。ありがとうございました。

川崎市総務局危機管理室 須田課長

どうもありがとうございました。次に京急川崎駅様よろしくお願ひいたします。

京急川崎駅 石井助役

京急川崎駅助役の石井と申します。本日は駅長が所要のため代理で参加させていただきました。本日は帰宅困難者対策ということで訓練に参加させていただきました。ありがとうございました。

平成 23 年 3 月の大地震の際、私どもの駅を含め川崎駅の周辺は大変な混雑に見舞われました。鉄道の場合あの規模の地震に見舞われますと安全確保の観点から全線の点検が必要になり、長時間営業が難しい状況となります。

私どもの駅におきましても水やブランケットなどの備蓄品を備蓄しており、災害発生時には設備等に問題がなければ帰宅困難者の一時受け入れを計画しております。しかし想定されている帰宅困難者の数からしますと、ごくごく一部ということになりますので川崎市様やアゼリア様はじめとした地域全体での受け入れということが不可欠になってくると思ひます。震災発生時には本日の訓練を踏まえぜひ協力をさせていただければと思ひます。

また本日は実動訓練ということで具体的なイメージを持ちながら訓練を行うことができました。わたくしも駅に帰りましたら駅長はじめ他の職員へも訓練の状況を説明し今後活かしてまいりたいと思います。簡単ではございますが本日の感想ならびにご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

川崎市総務局危機管理室 須田課長

どうもありがとうございました。続いて、一時滞在施設として本日は約 300 名の帰宅困難者を受け入れていただきました川崎アゼリア様、よろしくお願ひいたします。

②一時滞在施設（川崎アゼリア）

川崎アゼリア 持田氏

川崎アゼリアの危機管理担当をしております持田と申します。よろしくお願ひします。

2年半前の3.11の時に約2,600人の受け入れをしたわけではございますが、今日は非常に暖かい天気の中の訓練でしたが当時の寒さを改めて思い出したところでございます。今日2年半経って初めて訓練が実施されたことを関係者のみなさまに感謝を申し上げたいと思います。

実際に訓練に参加しましてですね、今回帰宅困難者はいろんな自主防などいろんな方のご協力の中で参加したということで、やり方としてPRも含めてですね、もっと駅前で説明しちゃってもよかったのではないかなという気はいたしました。訓練だからこそ、もっとやってもよかったのではないかという気がしました。

それから無線のやりとりについてはですね、情報の収集とかいろんなやり取りが必要だと思うのですが、もっと拠点と拠点とのやりとりができる形ができたならよかったのではないかと。あるいは、私どもと駅との関係だとか、その辺もいずれできるようにしていただければと思います。

それから2年半前に一番苦労したのはですね毛布の配布だったのですが、今回危機管理室の方で軽いブランケットを配布していただきまして、毛布3,000枚を配るにあたり大変な人的な負担がありまして重かったわけですが、非常にその辺改善されたなと思ひまして活かされたのではないかと思ひました。

いずれにしても駅周辺のいろんな企業のみなさん、あるいは地域の商店街、自主防のみなさんと協力して想定される19,000人に対して今後益々詰めていかなければいけないなど改めて認識したところでございます。本日はありがとうございました。

川崎市総務局危機管理室 須田課長

どうもありがとうございました。続きまして議事の2つ目としまして川崎市防災企画専門員である日野宗門様からの訓練講評をいただきます。では先生、よろしくお願ひいたします。

議事（２）川崎市防災企画専門官（日野 宗門氏）からの訓練講評

川崎市防災企画専門官 日野 宗門氏

ただ今ご紹介いただきました日野でございます。いくつかメモをとっておきまして、これからお話するお話しは少しあちこち飛ぶかもしれませんが、少し大きく帰宅困難者問題というのを考えながら今回の訓練というものをもう一回見直していきたいと思います。

まず私が申し上げたいのは 3.11 の時の仙台市仙台駅周辺の状況がどうだったかということからお話しをしたいと思います。仙台というのは暦を遡ること 33 年前、3.11 から 33 年前になりましょかね、1978 年の 6 月の 12 日に午後 5 時 12 分だったか、14 分だったか宮城県沖地震というものがございまして、年配の方だとその頃のこと覚えていらっしゃると思いますけれども、その頃まだ生まれていないという方はいないと思いますけれども、ご記憶にないという方も多いと思いますけれども、東京あたりで震度 3 の揺れだったのです。

そういう時に仙台はどうだったかと。仙台が一番被害が大きかったのですけれども、その時仙台駅周辺で何が起きたかということ、9,000 人の帰宅困難者が発生しているのです。その時どうだったかということ、当時は J R と言わず国鉄と呼んでおりましたけれども、その国鉄がですね、電車・列車は動かないから、徒歩なり、相乗りなりでいろんなルートで帰って欲しいというアナウンスを積極的にやりました。

それからそれだけではだめなのですね。午後 5 時過ぎの地震ですから当時の仙台市 6 月ですから日没がちょうど 7 時なのですね。だいたい 2 時間弱くらいで日没を迎える。日没を迎えたころから周辺が不穏な雰囲気になってくるのです。国鉄がいくらアナウンスしてもこれはちょっとという感じの状況になりまして、そこに県警が投光車でもって、もう動かないから帰れということは何度も何度も流したということで、それでもってその場の状況が落ち着いてきたという報告が当時の資料に残っています。

まさしく今回の訓練はですね、帰宅困難者といっていますけれども、もう一つは帰宅困難者が抱える不安、それが全体的に不穏という状況になってくる、それをどうするか。いわゆる混乱を防止する、抑止するということを訓練の目的においていたと理解しております。そういう観点から今回の訓練をどう眺めるか、どう考えるかということの後程申し上げたいと思います。

その前に 1978 年には仙台駅ではそういうことがあったのだと。この問題はですね、決して新しいものではなくて昔からこういうことが可能性ということが十分露出されたということをご理解いただきたい。

3.11 の時仙台駅はどうだったかと。今度は約 11,000 人の帰宅困難者が発生したということが地元新聞の河北新報では伝えられています。その時行政はどう動いたか、J R はどう動いたかということですが、J R は残念ながら仙台駅の天井板が落下ということで乗客を外に全部排出する。外に出された乗客がどうなるかということは、その周りに散ることなのですからこの時行政はどう動いたかということなのですから、残

念ながら仙台市の報告書を見てみますと、仙台市としては帰宅困難者対策の重要性は意識していたけれども基本的な対策は講じていなかった。なんら抑止的な対策を講じていなかった。結果として非常に残念なと言いましょか、非常に危険なこととはなかったのですけれども。

例えば本来であれば地域住民が使うべき避難所がですね帰宅困難者に占拠された状況になって、逆に地域住民が危険な自宅に戻らざるをえないという状況になった。帰宅困難者の内訳を見てみますと単に交通機関を利用されているという方だけでなく、実は驚いたことにですね、近所の会社の従業員が避難所に押し寄せていると。

つまり本来、帰宅困難者対策がやっている会社員を帰さない、従業員を帰さない、会社で収容するということの「いろは」の「い」も基本的には 3.11 の時になされていなかったということが言えるのではないかなと。

その点からすると随分進歩したとわたくしは見ていますのですけれども。いくつかですね、考えておかなければならない問題。3.11 の時の川崎駅周辺における対応は、私は非常にうまくいったのではないかと思っております。ただ先ほどのお話しにもありましたけれども、実際にこの訓練の企画書の中にもありますけれども、川崎駅周辺で川崎市直下タイプの地震が起きたときに川崎駅周辺にどれくらいの帰宅困難者が発生するかというと 19,000 人という数字が出ていると、そういう想定がされていると。

先ほどのお話しの中に、小林室長のお話の中に出ていた、アゼリアさんで 3,000 人受け入れたということなのですが、この直下型のマグニチュード 7.3 というものが起きた場合にはそれを上回るような数字の帰宅困難者が発生すると。これをどう考えるか。仙台駅では 3.11 の時 11,000 人ですけれども、JR の乗降客の人数でいくと川崎駅の JR の利用者・乗降客というのは仙台駅の 2 倍強あります。仙台駅で発生した 11,000 人を単純に倍にしても 2 万数千人になると。19,000 人という数字は非常に現実的な数字ととらえておかなければいけない。大きすぎてこれは山のような話じゃないかと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、おそらくこれは東日本大震災時に仙台駅が陥った状況に川崎駅周辺でなればですね、おそらく 19,000 人という数字は絵空事の数字ではないような気がします。

ではその時どうするかということですが、先ほど言いましたけれども、この帰宅困難者はどこに行ったかということと地域の周辺の避難所に行ったということもありましたけれども、一方では行政機能を非常に阻害していますよね。

宮城県庁で 1,000 人以上の帰宅困難者受け入れ、仙台市役所でもおそらく帰宅困難者を受け入れたと思います。はっきりとした記録はありませんけれども避難者を受け入れたという記録はあります。宮城県庁で帰宅困難者を 1,000 人以上受け入れたと、宮城県庁というのは仙台駅からどれくらい離れているかということと直線距離で 1.5Km くらいあるのです。そういうところまで帰宅困難者が押し寄せてきたと。

よく考えていただくとですね、おそらくターミナルビルの近くにいろんな官公庁があって、行政機関があって、場合によってはそこが対策拠点かもしれない。そういう対策拠点

がですね、場合によっては帰宅困難者であふれかえるかもしれない。その時に建物は残ったけれど対策拠点としての機能がね、機能しうるかという問題が生じてくる可能性があるということがですね、これは考えておかなければいけない。そういうところに影響が及ばない、やはり駅周辺にバッファゾーンをどうつくるか、一時滞在施設をどうつくるか、そういうことをぜひ考えておかなければいけない。

3.11 の時首都圏が襲われたのは長く見ても1日ですよ。宮城県庁ではですね、帰宅困難者は5日間くらい遅い人はいたと。それでも帰れない人は近くの避難所に移っていただけいたという記録もありますけれども、今度は長丁場になります。帰宅困難者の受け入れがね。もちろん日に日に減っては行くでしょうけれども、日に日に減ってはいつでもですね、この間の3.11のようなことでもって、それをもって上書きするような対策でもっていいと思っていると、ちょっと違うのではないかと、次元が違うだろうと。そこら辺のことを十分考えておく必要があるのではないかなと考えております。

少し具体的な話をしていきたいと思います。今日やられた訓練の話ですけれども、実は混乱を抑止するというを目的にしているのであれば、やはり混乱を抑止するためのアナウンスがもうちょっとあった方がよかったのではないかと。どういうアナウンスかというと、DJ ポリスのような感じでやるということではなくて、本当に欲しい情報をどう与えるかということ。

そのアナウンスする情報がそれぞれのところで計画されたものがあるのかどうか。どうなのでしょうかね。3.11 の時は突発的というか不意打ちを食らったということで、ある意味場当たり的な対応だったのですけれども、これからは迎え撃つという時間的余裕がある。

我々は何ができるかということ、混乱を抑制するためには一番よく効くのはアナウンスと、あと実際的には帰宅困難者を受け入れるための準備、そういうことなんかが非常に重要だと思いますが。今回の場合はですね、アナウンスがもっとあってもよかったのではないかという気がします。混乱抑止のアナウンスをどうするのかということもぜひ考えておいていただきたいと思います。

今回、NTT さんのご協力で災害用伝言ダイヤルが稼働していましたよね。私も使ってみました。非常によく使えるのですけれども、本日使った方いらっしゃいましたかね。

帰宅困難者といってもいろんな内訳があって、帰宅困難者とひとくくりにするとは非常にまずい。国の定義ではおそらく帰宅困難者というのは距離でやっていて、帰れる人、帰れない人というように単純な分け方しているのですけれども、帰宅困難者の属性をもっと見なきゃいけない。本当に急いで帰らなきゃいけない人はどうするか。例えば小さなお子さんを保育園に預けていると、そういう方々は死に物狂いで帰りますよね。そういう方々に対しては情報提供の在り方というのをどう考えるのか。一方でそんなに急いで帰らなくてもよい人もいます。例えば一人住まいをしているとか、子供たちは成人していて大丈夫だとか、そういう方もいらっしゃる。一方では目の色変えて帰らなきゃいけない人がいる。今の状況では帰らなければならない。それはなんでなのかということ、家族の安否がわ

からないからということ。

実は災害用伝言ダイヤル、NTT さんが提供されているこれをどう使うかと。NTT さんがせっかく提供してくれているものを帰宅困難者になぜアナウンスしないのかと。災害用伝言ダイヤルは NTT さんがやっていますけれども、携帯会社には災害用伝言板というものがありませんよね。こういうものを使いなさい。

3.11 の時は NTT さんには申し訳ないですけども、NTT さんの方で災害用伝言ダイヤルが起動したのが 3 時間後ですよ。あの時はシステム異常があったのではないかと聞いていますけれども。現実の問題でいくと、おそらく NTT さんの場合は 10 分、20 分、悪くても 30 分後には立ち上がるのではないかと。それから災害用伝言板の稼働時期をみていくと、3.11 の時だいたい 10 分前後で立ち上がる。こういうものを帰宅困難者の中にいらしやる特に若いお父さん、お母さんが、自分の子供がどうなっているかわからないならばこの方法で連絡とりなさいと。そうすれば、そういう方々が焦って帰る必要はなにもない。安否がわかれば。そういうようなアナウンスを積極的にやるべきではないかと。

帰宅困難者も東京で起きた状況というものの映像を見ていると、非常に危険な状況があります。例えば、非常に焦って自宅に帰ろうとする方々が車道にあふれる。車道にあふれて車が走れない。車が走れない、一般車両が走れないのは私としては一向に構わないと思っているのですけれども、緊急車両が走れない。緊急車両が走れないということは消防車両が走れない。火災が発生して、気象状況が、かなり強い風が吹いている状況だったらいったいどうするのか。

やはりそういうような急いで帰る方々が、無理をしてでも帰りたいという、そういう方々がかなりいたのではないかと。そうでない方々は抑制しなきゃいけないのですけれども、それをどう抑制するのか。お父さん、お母さんにね、保育園では子供さんの安全を確保していますという情報を提供してもらえれば、お父さん、お母さんもそんなに焦って帰らなくてもいい。

ですから、その時にちゃんとした的確なアナウンスがあればそのお父さん、お母さん方をコントロールすることができる。そういうことをちゃんとやらないでコントロールしようとしてもなかなか難しい。根っこにあるものは何か。帰宅困難者の属性をね、もっとそこに注目しながら、それらに対するアナウンスの仕方とか、そういうことを工夫する必要があるのではないかと。今日はかなり欲張りなことを言っています。今日の訓練というよりも一般論としてちょっと欲張りなことを言っています。そういうことをぜひやる必要があるのではないかと。

3.11 の時の新宿の映像がありました。歩道橋の映像がありましたよね。見た方いらっしやるとおもいますが、人がぶら下がる状況といますか、以前、明石市の花火大会でたくさんの方が亡くなった。たくさんの方がお互いおしくらまんじゅうで、群衆雪崩が起きて多くの方が亡くなった。特にお年寄りとお子さんが亡くなった。それに近い状況ではないかと思うくらい非常に危険な状況。

ああいう状況がですね、首都直下の状況で起きないという保証はない。そういう時どうするのだと。まさしく急ぐ気持ちをどうコントロールするのか、あるいは急がなくてよい状況にどうもっていくのか、そういうことをきっちりやる。あるいは流れをどうコントロールするのか。どこに人を配置すれば双方からぶつかってくる流れを作らないで済むのか。そういったことをぜひ研究していただければと思います。

今日の訓練についての講評とはなかなかいきませんが、帰宅困難者対策の在り方をみていると、日頃思っていることをちょっと言いたいなど。今日はこういうかたちで申し上げます。

それで今日の訓練の話に少し踏み込みたいと思いますけれども。訓練はですね、私も随分昔に避難者の訓練、街頭で車が走れない状況で避難者をどう逃がすのかという訓練を企画、そして実際にやったことがあります。なかなか訓練だけを見ているとこれで成果があがったのかということが悩ましいところがある。昔もそういう感覚があった。おそらく今日の訓練をやられた方々ももっとこういうことができたのではないかと色々反省するところがあるかと思いますが、後日の反省会で活かしていただきたいと思いますが、私自身はこういう訓練を通じて、おそらく 3.11 の仙台駅周辺で起きたことと違って、今みなさんがやっていることは川崎駅周辺の関係者が集って、意見交換をし、帰宅困難者に対してどう向き合うのか、どういように混乱を抑止し、コントロールしていくのかということについて顔を突き合わせて議論している。すでに成果の第一歩として今日の訓練を迎えた。随分、3.11 の状況とは違う。そういう意味で非常に大きな進歩といえます。

今日の訓練だけをとらえて、どうのこうのということは訓練の評価としては、それは間違いだと。これまで顔を突き合わせてやってきて、相互の連携をどうやるべきかと、そういうところまできた。非常にこれは素晴らしいことだと思います。

さらに今日の訓練でさらに見えたところもあると思います。もっとたくさんの人が出たらどうするのかとか、あるいは無線で受け入れの一時滞在施設間の連携、あるいは情報伝達をどうするのかですとか、ご指摘がありましたけれどもそういうことも踏まえてぜひさらに進化させていただければ、先ほどの想定される 19,000 人の帰宅困難者を迎え入れることも困難ではないだろうと、そういうふうに思います。

今回の訓練の目的はですね、基本動作の確認、行動ルールの検証だということ。行動ルールの基本動作を今回やってみて、それでどうなのかということで、基本動作を身に着けるということが非常に大切で、基本動作ができないとどうなるかといいますと、対応が場当たり的になるのです。

おそらく 3.11 の時のアゼリアさんの対応は非常に臨機応変に、非常にうまくやったのだと思います。ただ、いつもうまくいく保証はない。うまくやろうとするとやはり普段から計画的にやらなきゃいけない。基本的に、3.11 の時の状況というのは偶発的な状況でもって、それぞれがみんな勝手、てんでんばらばらに動いたのではないかと。

いろいろな資料を読んでいると思ったのですけれども、それから比べると非常に組織立

っていると。みなさま方がそういう状況を迎えた時には組織間の連携というのはかなりうまくいくのではないかと。どいうところに一時滞在施設があるのか、いわゆる人的・物的資源がどこにあるかという確認がスムーズに進む。あとは人的・物的資源をどういうふうに大きくしていくかという課題もありますけれども非常にゴールに向かって、王道を歩いていると私は思っている。そういったことで、今日の訓練をその1歩と位置付けて、その王道をゴールを目指して頑張っていただければと思っております。

これまで色々申し上げましたけれども、この訓練は、先ほどの繰り返しになりますけれども。災害対応関係者が非常に多いと思いますけれども、私が日頃よく言っている言葉なのですが、みなさま方の対応というのは場当たりの対応なのか、それとも臨機応変な対応なのかということをいつも言うのです。

言葉の意味を辞書で引いても大きな違いは出てこないと思いますけれども、場当たりのというのは見通しもない、方針もない、その中でとにかく自分の勘に頼ってやる非常に浅い知恵と知識でやるのが場当たりの対応なのです。臨機応変というのはちゃんとした方針・方向性を持って、それなりに準備を整えた上で生まれてくるのが臨機応変なのです。

ところが世間ではよく災害の時の報道で市町村ですとか県の担当者にマスコミがインタビューすると、どうでしたかということには臨機応変にやりましたと言いますが、多くの場合、私はあれは場当たりの対応だと思っています。本当に準備していたのかと。

準備していたらこんなことにならないでしょうと。数々ありますよね。そういうことにならないように最後に是非、今日の訓練を一步としながら、是非、臨機応変のその成熟度、熟度を高めてですね、最終的なゴール、それに向かって努力して頂ければと思います。かなり一般的な話しになりましたけれども、全体的な話でしたけれどもお話しさせていただきました。私の話が今日の訓練のなんらかの参考になれば幸いです。ありがとうございました。

川崎市総務局危機管理室 須田課長

どうもありがとうございました。以上で予定した議事を終了いたしますけれども、今お話しを伺った日野先生、あるいは全体に対してここで御意見、御質問等ありましたらお願いしたいと思っております。

せっかくの機会ですので、こういう場合にはどうかということはないでしょうか。

それでは以上で議事を終了させていただきます。最後にその他としまして次回の開催についてであります。第3回の都市再生安全確保計画作成部会は来年の1月21日火曜日の14時から川崎フロンティアビル2階川崎商工会議所第5・第6会議室ということでありますので、本日と同じ場所において実施する予定であります。会議の内容につきましては今回の実動訓練を通じて得られました課題や教訓、こういったものを行動ルールに反映する、そういった中身になります。関係者の皆さまには今回の訓練についてのアンケートを配布

させていただきまして、現在の行動ルールについての課題だとか改善策、こういったことについてご意見をいただきたいと考えております。引き続き一層のご協力をお願いいたします。それでは以上をもちまして川崎駅周辺帰宅困難者対策訓練検討会を終了させていただきます。本日は訓練および検討会、誠に有難うございました。

以上